
§ 幻夢世界

○創成神話

神代の昔、世界には神々のみが存在した。そんな中、世界の片隅に、神の意志が思うがままに反映できる場所が発見される。その名を「幻夢世界」という。神々は「幻夢世界」を手に入れるために争い始めた。

悠久の時が流れ、神の数は22柱にまで減っていた。「最初に生まれ、最後に目覚めた」と語られる運命神は、決着をつけるべく、残った他の神々全てに戦いを挑んだ。

1柱、また1柱と神が倒れ、最後に2柱の神が残った。「運命神」と「無の神」である。

無の神は「顔無しの神」とも呼ばれる顔が真っ暗で表情が見えない神であった。無の神は神々同士の戦いに嫌気がさしており、なんとか終息させる方法を探していた。そんな時、運命神が残った神々全てに宣戦布告することを知る。無の神は最後に自分の願いを聞き届けてもらうことを対価に、運命神に協力することにした。そう、運命神は1柱ではなく2柱で協力して戦っていたのだ。

他の神を全て倒した運命神は、倒した神々を粉々にし、「幻夢世界」にばら撒いた。神々の血潮を受けた「幻夢世界」には生命があふれ、急速に発展を始めた。

無の神の最後の願いは、自分を殺して「幻夢世界」にばら撒いてもらうことだった。あらゆるものを無に帰す力を持つ自分が、何かを生み出す存在の一部になりたかったのだ。運命神は、その願いどおり、無の神を粉々にし「幻夢世界」にばら撒いた。そうして運命神は「幻夢世界」で唯一の神となったのである。

○紋章

「幻夢世界」の住人である人型種族のほとんどが体に紋様を刻まれて生まれてくる。その紋様をこの世界では総称して『紋章』と呼ぶ。紋章は、様々な魔法的能力を持ち、この世界にばら撒かれた神々の破片だと言われている。

紋章を授かっているのは、その力を使いこなせるといわれる人型種族がほとんどだが、魔獣と呼ばれるものの中には、紋章と同じ力を発動させるものが存在する。

紋章は想像力によってその様々な効果を発動する。そのため、新たな使い方を見出すものが絶えない。

○運命神の祝福

唯一神となった運命神は、非常に好奇心旺盛な神であり、幻夢世界のあちこちをいつも眺めている。運命神は積極的に行動する者を好み、よく祝福を授けると言われている。この世界の住人達は、運命神が祝福を授けた際に、なんとなく祝福された雰囲気を感じとることがある。運命神の祝福を受けた者は、困難に立ち向かい、それを打破することができると言われている。そのため、ハンターの中に運命神への信仰が厚い者が多い。
